

徳島大学 留学生センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.4

2004.10.25

特集 地域・学生との連携

▶▶▶ 地域との連携 ◀◀◀



徳島大学は平成15・16年度文部科学省地域貢献特別支援事業計画のもとに、「地域社会の『人・物・心・体』の総合支援」をテーマに様々な地域との課題に取り組んでいます。留学生センターはこの中の「心」、地域に住む外国人や異文化に対する理解を深め、新たな共生の地域社会の創造を目指すことをお手伝いしています。すなわち、留学生や日本人教職員といった学内のみならず、広く学外の地域の皆さんも活動の対象としています。

平成15年秋と今年春には、開放実践センターの公開講座として、「国際交流ボランティア入門」を実施しました。以下はその報告です。

留学生センター5名の教員による各専門分野の話を通して、「異文化を理解する、共に生きる、新たな地域社会を創る」の三つを参加者と共に考えることを講座の目的としました。具体的には、留学生及び在住外国人の支援の有り方、すなわち「国際交流ボランティア」として何ができるか、大学との連携の可能性を参加者と探るといふものです。

＜内容＞（担当）	＜ねらい＞
1 『異文化とコミュニケーション』（三隅）	生活の中での異文化に気づく
2 『日本語教育と異文化理解』（大石）	日本語・日本語教育とは
3 『アジアと日本語～100年前の日本語教育と朝鮮半島～』（上田）	アジアと日本語教育の関連・歴史的背景を知る
4 『多様性トレーニング』（坂田）	異文化とつきあうためのエクササイズを体験する
5 『現代留学事情』（金）	外国人留学生の現状を知る
6 『異文化体験 ～留学生との交流を通して～』	国際交流パーティ

最終回（2004年7月10日）の交流パーティでは、徳島大学の留学生と受講者、日本人学生52名がコープ住吉に集まり、七夕パーティを開くことができました。マレーシア、中国、韓国、ベトナムの料理を試食し、会話を楽しみました。5回の講義を通して異文化や外国人の存在を考えるようになった、さらに最後のパーティでの対話の体験は大変貴重であったという参加者の声も得ました。「共生」という大きな目標に、留学生センターは地域のみなさんに今後も講座と交流活動を提供していくつもりです。皆さんからの交流に対する意見や要望も受け付けております。



特集 地域・学生との連携

▶▶▶ 学生サポーターと地域サポーター ◀◀◀

昨年度から実験的に始めていた、留学生センターをサポートするサポーターの対象を学生から地域にまで広げシステムを作り、この4月から本格的にスタートしました。呼びかけに対して徳島大学の学生からなる「学生サポーター」は約50名、地域の人々からなる「地域サポーター」は12名と予想を超えた反応で、嬉しい悲鳴をあげました。

主な活動は現時点では、日本語教育のサポートで、オリエンテーション時キャンパスツアーをはじめ、授業に入り「変換練習」や「会話練習」はもとより、クラスについていけない留学生の補講や学生達といっしょに発表し意見交換をするなどクラスレベルに応じてサポート内容は様々です。またこの春学期では日本語をとおしての交流会やワンデイトリップなども実施しました。留学生達は、学生・地域サポーターとの勉強を楽しみにしていて、いきいきと臨んでいました。教室外でも、積極的にそして自主的にコンサートをしたり交流をもったりという人達もいます。「キャンパスであったとき声を掛け合える相手ができる嬉しい。」という声が留学生達からよく聞かれます。

またサポーターは、今まで気にしていなかった留学生の国に関心を持ったり今までの先入観が覆されたりと、いろいろ得るものがあつたようで、従来の授業に加えていろいろな体験ができたようです。

日本人学生に対しては、年間の活動を記録しておいて、希望があれば、活動記録証明書を発行します。先日も奨学金申請時に添付するために依頼がありました。

秋からは、日本語教育だけではなく、学内の「英語スピーチ大会」実行委員をはじめ、活動の場が広がっていきます。今後も更に整備し、充実させていきたいと思っています。



(学生サポーターと)



(日本語研修コース 常三島)

特集 地域・学生との連携

地域サポーター・学生サポーターとの授業風景

▶▶ 地域サポーターとの授業



◀ (全学日本語コース 日本語C 常三島)

テーマについて調べ、
地域サポーターと
日本語を使い説明します。

▶▶ 学生サポーターとの授業

(全学日本語コース 日本語A 蔵本) ▶

その日の授業で学んだ表現を
学生サポーターに使ってみます。
スムーズに言えるようになるまで
繰り返します。



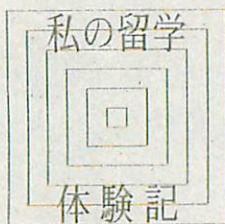
◀ (日本語研修コース
内町コミュニティセンター)

学生サポーターと一緒に日本語で料理
のレシピを作り、一緒に買い物をして、
そして一緒に作りました。

メニュー

- 「ムサカ」セルビア・モンテネグロ
- 「回鍋肉」中国
- 「パン デ ケイジョ」ブラジル
- 「広島風お好み焼き」日本





忘れ得ぬ日々・忘れ得ぬ人々



大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

小児口腔健康科学分野 教授 西野 瑞穂



わたくしは、1970年、ちょうどEXPO70が大阪で開催されている時にイリノイ大学歯学部小児歯科学講座に留学致しました。イリノイ大学から給与が出たこと、および大阪大学の教官であるということから、今では考えられない「公用旅券」による「出張」でした。まだまだ留学の少ない当時でしたから、新大阪駅で歯学部長、歯学部附属病院長はじめほとんどの教授の見送りを受けました。これも今では考えられないことです。1ドル360円という時代であり、アメリカが結核予防の水際作戦を徹底していた時代でしたので、病院で厳封された胸部レントゲンの入った大きな筒を抱えての入国でした。シカゴのホテルに到着しますと、真夜中だというのに人でごった返しており、聞くとニクソン大統領が宿泊しているためジャーナリストであふれているのだとのことでした。

9月17日、わたくしの誕生日にアメリカ生活の第一歩を踏み出しました。

留学中には、動物実験、1週1回1年間にわたる Research and Teacher Education Seminar (座長は心理学者) への参加、卒前臨床実習・卒後臨床研修への参加、あるいは、臨床指導には開業医や軍医の方々が来ていましたから、開業歯科医院を見学に行ったこともありました。専門医制度がはっきりしているアメリカでは General practitioner と小児歯科専門医、矯正歯科専門医、歯周療法専門医、歯内療法専門医、口腔外科専門医が Dental Center を作っており、今でこそ日本でも認定医や専門医は珍しくありませんが、1970年当時そのようなことは日本で聞いたこともなく、たいへん驚きました。



左の写真は全米で1、2といわれていた動物実験施設(人間の手術と全く同じ設備が整っており、通称 animal hospital) でサルにインプラント術を実施する助手をしているところ。わたくしがサルの抜歯がとても上手いというので、この研究者は実験の度にわたくしと一緒に来て欲しいと声をかけてきました。わたくしもサルの抜歯を大いに楽しみました。

右の写真は、ホームステイさせていただいた家で、18歳のお嬢さんは若年性糖尿病でしたが、インシュリンを自分の働き(薬局勤務)で購入し、自分で毎日注射していました。決して貧しくない普通の家庭で、自分の病気とつきあいながら、自分の力で生き抜くことを子どもに教育するアメリカ人にたいへん感銘を受けました。

留学中アメリカ東部、中部、西部を飛行機、グレイハウンドバス、観光バスなどで多めに旅しました。誰にとってもそうであるように、わたくしにとっても留学の日々はその1ページ1ページが生涯忘れ得ぬ青春の思い出です。

あれから34年、徳島大学におけるわたくしたちの教室には文部科学省、JICA、徳島県等々の支援により、これまでにメキシコ、ブラジル、フィリピン、インドネシア、中国から9人の留学生を迎え、4人がPhD、4人が厚生労働大臣から臨床修練証明書を得ました。現在1人がPhDコース、厚生労働大臣から臨床修練を許可された外国歯科医師として、研究および臨床に従事しておられます。これらの人々が徳島における、そして日本における生涯忘れ得ぬ日々を刻んで欲しいと祈念しています。外国の方々とともに日々を生活するということは、わたくしたちの視野や価値観を広げ、多くのことを学びます。今後ともささやかながら国際協力に力を尽くしたいと念じています。



大学に期待すること

徳島大学総合科学部人間学科2年 謝 杰



現在、徳島大学の留学生数が増えつつあります。留学生に対する支援は様々な形で行われています。しかし、いろいろな問題が起こり、困っている留学生もいるのが現状です。特に、入学時に適切な情報が必要だと感じています。大学に入ったばかりでは、学校のことについて全く見当が付きません。どんな情報がどこで誰によって得られるかそして相談できるかを明確にすることが大切です。また、東京の日本語学校を卒業した留学生で、最初、徳島の方言が分からなく、アルバイト先の人と喧嘩になってしまったことを聞きました。大学に入って、学内の付き合いだけではなく、地域の人々との関係を作ることも大切だと思います。それには留学生と地域の人が接する機会を増やし、活発な交流活動を促すべきです。新入学の留学生に対しては、学校の勉強と同時に日常生活への配慮も大切です。

さらに留学生を増やすために私は、次の二つを提案します。まず、奨学金や授業料免除等の資金的な援助はもちろんですが、魅力のある専門教育のコースを設置することです。つまり、国際的に人気のあるコースや「日本」を留学生の立場から学べるコースの開発です。そして、留学生と日本人学生の交流を活発にすることです。言葉は交流の一番大きな障害であり、留学生は日本語の勉強を特に頑張らなければなりません。日本語がうまく使えない留学生たち、留学生の文化や習慣などが分からない日本人学生、お互いの真ん中に壁ができてしまいます。授業以外にスポーツや校外研修などの留学生と日本人学生の接する活動をもっと多く作るとよいと思います。一つの解決方法として互いが協力し交流し合える環境を作ることが大切です。

入学して二年がたち、思いついたことを述べました。私は今後日本語の教師になる勉強も考えています。そして何よりも多くの友達を作りたいと思います。



2003年11月26日(水) 日本事情「吉野川プロジェクト」
徳島県立農業大学校 野田先生をお迎えして
「吉野川と農業」というテーマでお話ししていただきました。

留学生センターよりお願いとお知らせ

【第4回英語スピーチコンテストについて】

本学では2001年より英語スピーチコンテストが開催されておりますが、今年度からは工学部、総合科学部、留学生センターの共催により全学の日本人学生ならびに留学生を対象とした「英語プレゼンテーションコンテスト」へとグレードアップを図るように考えております。日程等は以下のようになりますので、参加希望者等への周知をよろしく願いいたします。

【日 時】2004年11月25日(木) 午後5時開始予定

【場 所】工学部工業会館

【テ ー マ】How to Improve our Tokushima University

【使用言語】英語

【発表時間等】1人5分程度+質疑応答(2分程度)

【連絡先】10月初旬から各学部にポスターを貼りますので、それを参照してください。



【全学国際交流意識調査について】

留学生センターでは、全学の更なる国際化に向けて色々取り組みを検討しているところなのですが、その検討の「基」となる調査を全学的に行いたいと考えています。

詳細は以下のような予定です。

【対象および内容】

- 教員に対する調査：留学生の受け入れ状況や学生の派遣状況等
- 職員に対する調査：キャンパスの国際化に関する意識調査等
- 学生に対する調査：派遣留学に関する意識調査等
- 留学生に対する調査：生活状況や日本語教育に関する調査等

【時期および方法】

- 2005年5月頃を計画しています。
- 方法としては、
 - (1) Webによるアンケート調査
 - (2) インタビュー調査
 を考えています。



内容や方法に関しては若干の変更もあると思いますが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成 16 年度 徳島大学外国人留学生名簿

平成 16 年 4 月～平成 16 年 9 月入学者

◆学部学生◆

番号	学部研究科	氏名	国籍	指導教員
1	総合科学部	呉 恒 (WU HENG)	中国	長井 伸一 掛井 秀一
2	総合科学部	蘇 美 琪 (SU MEIQI)	中国	桂 修治 森 太郎
3	工学部	HIRUYAN MD. TAWHIDUR RAHMAN	バングラデシュ	北 研二 藤子 堀正管
4	工学部	邵 聰 (SHAO CONG)	中国	山上 拓男 菅 景彩
5	工学部	苑 蕾 (YUAN LEI)	中国	山上 拓男 菅 景彩
6	工学部	邓 聰 聡 (DENG CONGCONG)	中国	森岡 謙一 岡田 健一
7	工学部	卢 阳 (LU YANG)	中国	森岡 謙一 岡田 健一
8	工学部	YUSFADLIE BIN YUSOFF	マレーシア	森岡 謙一 岡田 健一
9	工学部	陳 剛 (CHEN GANG)	中国	伊坂 勝生
10	工学部	陳 皓 (CHEN HAO)	中国	大宅 薫
11	工学部	李 揚 (LI YANG)	中国	森井 昌克 毛利 公美
12	工学部	宋 爽 (SONG SHUANG)	中国	堀 均 長宗 秀明
13	工学部	黄 佳 焯 (HUANGJIAWEI)	中国	福井 萬壽大 原口 雅宜

◆大学院生◆

番号	学部研究科	氏名	国籍	指導教員
14	人間・自然環境研究科	蘭 巍 (LIN WEI)	中国	岸江 信介
15	人間・自然環境研究科	丁 音 華 (DING YU HUA)	中国	高橋 晋一
16	人間・自然環境研究科	趙 建 強 (ZHIAO JIANG QUANG)	中国	三木 正幸
17	人間・自然環境研究科	林 巍 (LIN WEI)	中国	三井 篤
18	人間・自然環境研究科	安 延 麟 (AN YAN LU)	中国	三木 正幸
19	人間・自然環境研究科	辺 国 瑜 (BYI KOKU YU)	中国	三井 篤
20	人間・自然環境研究科	鄭 嵐 (ZHENG LAN)	中国	仙波 光明
21	人間・自然環境研究科	董 芳 (DONG FANG)	中国	仙波 光明
22	人間・自然環境研究科	MONTIEL TELLEZ FRIDA REBECA	メキシコ	佐藤 充宏
23	医科学教育部	KHAMRSRI BOONRUNG	タイ	足立 昭夫
24	医科学教育部	宋 鴻 偉 (SONG HONGWEI)	中国	大森 哲郎
25	医科学教育部	李 士 根 (LI SHI GEN)	中国	安友 康二
26	医科学教育部	MAWLAN MAHMUT	中国	西谷 弘
27	医科学教育部	AZIZ ABBASPOUR	イラン	加藤 真介
28	医学研究科	应 玲 (YING LING)	中国	中堀 豊
29	医学研究科	司 阳 (SI YANG)	中国	杉野 弘
30	栄養生命科学研究科	WAKITA ASANO ANDREA	アルゼンチン	山本 茂
31	栄養生命科学研究科	許 慈 芳 (HSU TZUFANG)	台湾	山本 茂
32	栄養生命科学研究科	林 佩 莹 (LIN PEI YING)	台湾	山本 茂
33	自習科	INTAN RUSPITA	インドネシア	野間 隆文
34	自習科	刘 大 力 (LIU DA LI)	中国	三宅洋一郎
35	薬科学教育部	MOHAMAD REZA MOHAMADI	イラン	馬場 嘉信
36	薬科学教育部	NGUYEN THI LAP	ベトナム	藤田 弘志
37	薬科学教育部	王 新 宇 (WANG XINYU)	中国	藤田 弘志

38	工学研究科	金 明 吉 (JIN MING JI)	中国	富田 太平
39	工学研究科	SAYED AHMAD ZIKRI BIN SAYED ALWEE	マレーシア	森井 昌克
40	工学研究科	KHAMMANIVONG SOMSAI	ラオス	川田 昌武
41	工学研究科	邵 敏 (SHAO BIN)	中国	任 福継
42	工学研究科	劉 安 宇 (LIU AN YU)	中国	鎌野 琢也
43	工学研究科	張 羽 (ZHANG YU)	中国	任 福継
44	工学研究科	蔡 雷 (CAI LEI)	中国	原口 雅宜
45	工学研究科	MOHAMMED SHABBIR AHAMED	バングラデシュ	仁木 登
46	工学研究科	HOSSAIN MOHAMMAD MAMUN	バングラデシュ	津嘉山正夫
47	工学研究科	MD SHARIF UDDIN	バングラデシュ	青江 順一
48	工学研究科	劉 通 劍 (LIU YU JIAN)	中国	望月 依利
49	工学研究科	肖 双 (XIAO SHUANG)	中国	任 福継
50	工学研究科	蘇 立 (SU LI)	中国	山中 英生
51	工学研究科	董 昕 琦 (DONG XINQIN)	中国	水口 裕之
52	工学研究科	祝 穎 連 (ZHU YING LIAN)	中国	竹内 敏巳

◆研究生等◆

番号	学科学研究科	氏名	国籍	指導教員
53	総合科学部	張 紅 (ZHANG HONG)	中国	岸江 信介
54	総合科学部	潘 哲 (PAN ZHE)	中国	佐野 克徳
55	総合科学部	代 娜 (YI NA)	中国	立花 敬雄
56	総合科学部	周 衡 (ZHOU HENG)	中国	三井 篤
57	総合科学部	程 琦 (CHENG QI)	中国	矢野 剛
58	総合科学部	李 卉 群 (LI HUI GUN)	中国	霞森 健介
59	医学部	JERE ABHAY JAGDISH	インド	足立 昭夫
60	医学部	BUNPO PIYAWAN	タイ	大西 克成
61	薬学部	張 勇 (ZHANG YONG)	中国	馬場 嘉信
62	工学部	鄭 光 (ZHENG GUANG)	中国	大恵俊一郎
63	工学部	陳 咏 春 (CHEN YONGCHUN)	中国	多田 吉宏
64	工学部	全 良 臣 (QUAN LIANG CHEN)	中国	下村 隆夫
65	工学部	于 雷 (YU LEI)	中国	任 福継
66	工学部	閻 庆 国 (YAN QINGGUO)	中国	赤松 則男
67	工学部	邱 志 勇 (QIU ZHIYONG)	中国	村上 理一
68	工学部	王 静 (WANG JING)	中国	任 福継
69	工学部	楊 鑫 磊 (YANG XINLEI)	中国	大恵俊一郎
70	工学部	鄭 敏 (ZHENG MIN)	中国	池田 建司
71	工学部	馬 嘉 (MA JIA)	中国	任 福継
72	工学部	顏 加 軍 (YAN JIAJUN)	中国	任 福継

◆日本語研修生◆

番号	学科学研究科	氏名	国籍	指導教員
73	留学生センター	BRUNA RABELO AMORIM	ブラジル	
74	留学生センター	KARABASIL RATKO MILEVA	セルビア	

留 学 生 課

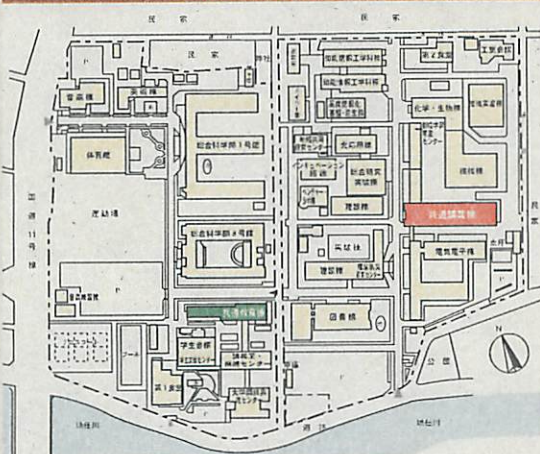
電話 088-656-7082
メール ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp

留 学 生 セ ン タ ー

センター長	教授	市川 哲雄	(088) 633-7346 ichi@dent.tokushima-u.ac.jp
副センター長	教授	大石 寧子	(088) 656-9875 oishi@cue.tokushima-u.ac.jp
	教授	三隅 友子	(088) 656-7120 misumi@ias.tokushima-u.ac.jp
	教授	金 成 海	(088) 656-7543 kin@pm.tokushima-u.ac.jp
	助教授	坂 田 浩	(088) 656-7199 kobayasi@ias.tokushima-u.ac.jp
	助教授	上 田 崇 仁	(088) 656-9872 ueda@pm.tokushima-u.ac.jp

留学生との交流の場

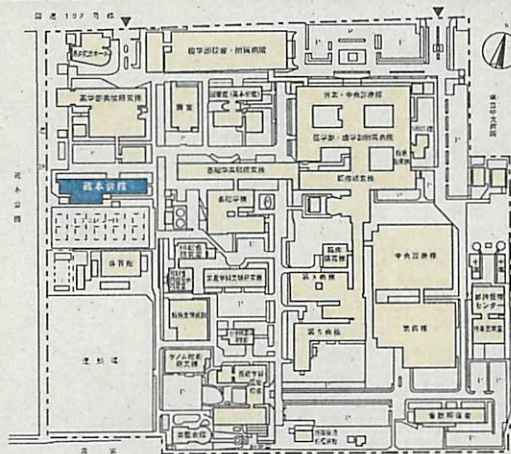
常三島地区



OASIS 工学部共通講義棟3階311室
開室時間 8:30~17:00
Tel & Fax: 088-656-9401 (内 4779)

たより 共通教育棟留学生課隣
開室時間 8:30~17:30

蔵本地区



留学生支援室
蔵本会館2階
開室時間 10:00~17:00
Tel & Fax: 088-633-7398 (内 7398)

編集後記

留学生センターは、留学生のための活動はもとより、地域の皆さんや日本人学生の皆さんとの交流活動も行っています。今号は、その活動の一部を特集で取りあげました。

発行 徳島大学留学生センター
住所 徳島市南常三島町1-1
Tel. 088-656-7082 Fax. 088-656-9873
E-mail: ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp